

臨床検査技師の仕事

臨床検査項目は多岐にわたっており、次のようなものがあります。

血液や胃液、尿、便、喀痰、腹水など検体を用いて病気を把握する検査。

臨床化学検査・・・血液中に含まれるタンパク質や脂質、ホルモンなどを測定し、各臓器の異常を調べます。

免疫血清検査・・・肝炎ウイルスやHIVなどのウイルスの特定やアレルギー検査を行います。

微生物検査・・・食中毒の起因菌の病原性大腸菌O-157やMRSA,結核菌などを培養して検出します。さらにどのような薬剤が有効かの薬剤感受性検査を行います。

病理・細胞検査・・・内視鏡や手術によって採取された臓器を標本にし、それを顕微鏡で観察して良性・悪性の診断、治療効果や予後などの判定に役立っています。

一般検査・・・尿中の糖やタンパクの量を調べ腎臓や肝臓の異常をチェックしたり、便に血や寄生虫の卵がないかの消化器の異常を調べます。

血液検査・・・血液中の白血球・赤血球・血小板に貧血・白血病といった異常がないかを調べます。

輸血検査・・・血液型検査や輸血する血液が適合するかを調べたり、臓器移植の際には臓器適合性検査を行います。

遺伝子検査・・・遺伝子を増幅し、遺伝子の構造や数などの異常を調べます。

身体に器具を装着して直接情報を得る検査。

生理検査・・・心電図や脳波、超音波(エコー)検査、呼吸機能検査などを行い、心臓・肺・神経など臓器の機能や構造を調べます。

視聴覚機能検査・・・見ることや聞くことができるかを調べます。

磁気共鳴画像検査・・・磁気活性装置で身体に超音波を当てて得られたエネルギーを画像にして調べます。

眼底写真検査・・・眼の網膜の変化を眼底カメラで写真に撮り、動脈硬化、糖尿病等で起こる変化を調べます。

超音波検査・・・身体に超音波を当てて各臓器の状態を反射波で、腫瘍、結石などの異常を調べます。